

なかまえ由紀

虎の巻



港区議会議員 無所属 の港区

25 年度決算から見る港区の財政状況

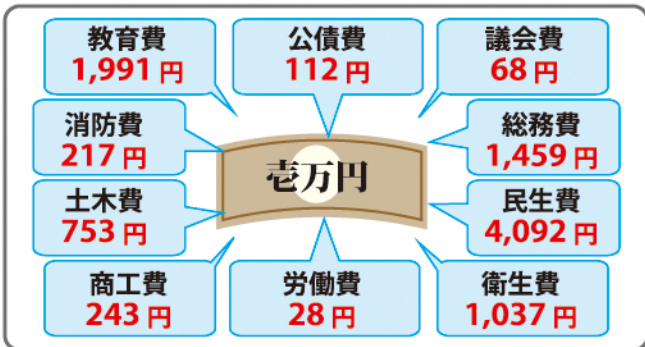
- 景気の持ち直しと人口増に支えられ、歳入の根幹を占める「特別区民税収入」は前年度比 19 億円増の 552 億円で 2 年連続の増収となりました。
- 一般会計歳入決算額 1,166 億円、歳出決算額 1,063 億、実質収支は 76 億円の黒字、実質単年度収支も 8 億円の黒字。
- 基金残高は前年度比 41 億円減の 1254 億円、区債残高は 13 億円減の 54 億円。
- 経常収支比率は 72% (財政の自由度を計る指標で、100% に近いほど財政にゆとりがないことを示します。23 区平均は 83%、全国平均は 98%)
- 財政力指数は 1.26 (1 を超えるほど財政に余裕があるとされます。24 年度の 23 区平均は 0.53)
- 収入超過とみなされ、23 区で唯一東京都からの普通不交金が交付されていません。(平成 15 年度以降不交付)

日本一豊かな自治体に求められる役割とは?

港区の人口に対する財政規模は近隣自治体と比較しても大きく*1、より充実した区民サービスが展開されていると言えます。まだまだ残された課題はありますが、自治体として平均以上の豊かなサービスを実現できています。多くの自治体が、そもそも国自体が財政難と言われている中、港区は突出して財政状況が良く、そのような立場にある港区は何をすべきなのか、常々考えてきました。区民税減税などの議論も過去ありましたが、私は財政力を活かし、試行的、先進的な取り組みに積極的にチャレンジすることが港区の役割ではないかと思えます。最近では佐賀県武雄市のようにユニークな取り組みや発信力で注目を集める自治体が見られます。港区でも財政や立地を生かし、大胆な取り組みを行い、さまざまな波及効果を図ることが可能です。地方自治体の新たな可能性にチャレンジすべきだと思えます。

もちろん、もしもの場合に備えての蓄え、区民サービスの充実、介護支援など喫緊の課題への対応が優先であり、安易なお金の使い方は論外です。

10,000 円に換算した支出内容を表しています。



※ 1 人口規模の似ている近隣区の直近の人口と 25 年度一般会計歳出額の比較

■文京区	20 万 7 千人	760 億円
■渋谷区	21 万 7 千人	740 億円
■墨田区	25 万 8 千人	990 億円
■港区	24 万人	1,060 億円

ご意見
募集!

〒106-0047 東京都港区南麻布 4-11-17-529

TEL/FAX 03-3446-9033

✉ info@nakamaeyuki.com

🏠 www.nakamaeyuki.com

facebook twitter 🔍 なかまえ由紀で検索

プロフィール

昭和 49 年生まれ、京都府出身
同志社中・高、東北大学教育学部卒業
IT 企業に就職後、友達づくりで参加した
勉強会での出会いをきっかけに港区議会
議員選挙に立候補、現在 3 期目

活動のお手伝いをしてくださる方も募集しています。

仲間へ勇気! なかまえ由紀^{ゆき}の港区 虎の巻

港区議会議員 無所属

会派を代表して区長、教育長に質問しました。

子育て支援と高齢者福祉を中心に 区政全般について質問しました

子育て支援では保育園、幼稚園、子ども園、区立、私立など預ける施設の違いにより、ハード面やソフト面に大きな差が生じることが無いよう、さらには子育てパウチャーの導入など在宅子育ても含め、保護者の選択に関わらず子育てが支援できる取り組みについて、学童クラブの充実などについて質問、要望しました。

高齢者福祉も喫緊の課題です。特養や高齢者住宅などの施設整備や在宅介護支援サービスなどの介護に係る事業に対するニーズの見込み量と確保策をわかりやすく提示し、区民の将来不安を解消すべきと訴えました。

その他「老朽分譲マンションの適正管理や建て替え支援」「自転車シェアリングや自転車レーンなど自転車に関するまちづくり」「集中豪雨等異常気象への

備え」「東京オリンピック・パラリンピックが区に与える影響の試算と区の戦略構築」「たばこ対策」「歴史的景観の保全」「区政情報のわかりやすい広報、区民意見の収集・分析・一元管理など区の情報戦略」について質問、要望しました。

決算特別委員会では

議会ホームページの改善、区の債権管理、選挙公報の全戸配布、高齢者の買い物支援、飼い主のいない猫、区内共通商品券事業、ちいばすの停留所改善、等について質問、要望しました。



予算要望

来年度予算に対する要望を100項目にまとめ、会派で区長に提出しました。



議員の仕事とは

議会での仕事の主なものとして、年4回の定例議会があります。そこで、会派ごとに区長・教育長に質問をしたり、予算案や各種条例(国で言うところの法律)案、区民の方などから出された請願などを審議し、採決しています。議員側にも条例提案権はありますが、現在の議会の仕組み上、難しい側面があり、政策実現の現実的な方法として、議会での質問などを通して自分の実現したい政策を訴えています。

議会閉会中も委員会が開かれ、行政側との質疑を通して区政の改善を図っています。

これだけですと、毎日出勤するわけでもなく暇なのでは?と思う方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、地域行事への参加やいただいた相談事への対応、膨大な資料を読む、政策実現に向けての勉強、このようなレポートの発行などによる区政報告、など議会の外にも大切な仕事がたくさんあります。

地域行事への参加は地域の方から区政への要望などが聞ける貴重な機会です。その時に聞けなくても普段から顔見知りになることで何か困ったことが

あった際に相談してもらえれば関係が築けます。いただく相談事はすぐに解決しないこともあります。一生懸命対応しています。普段の勉強としては資料を読むだけでなく、先進自治体に行ったり、勉強会への参加などさまざまです。

地方政治はニュースで取り上げられることも少なく、見えづらいかと思います。

しかし身の回りのことすべてが政治につながっています。

むつかしく考えず、日頃の生活の中で気が付いたことをどんどん声にあげていただきたいと思います。

政治への関心は議員の意識や質の向上につながります。

少しでも身の回りの政治に関心を持っていただければうれしいです。



ご意見募集!

〒106-0047 東京都港区南麻布 4-11-17-529 TEL/FAX 03-3446-9033
メール info@nakamaeyuki.com

ホームページ www.nakamaeyuki.com

facebook twitter

なかまえ由紀で検索

活動のお手伝いをしてくださる方も募集しています。

なかまえ

港区議会議員(無所属)

由紀の港区 虎の巻



仲間へ勇気!

VOL. 54
発行 みなと政策クラブ なかまえ由紀
発行日 平成27年 4月 1日
所在地 〒106-0047 東京都港区南麻布4-11-17-529
TEL&FAX 03-3446-9033
E-mail info@nakamaeyuki.com

3期12年、港区の移り変わりと私の基本姿勢

街は日々変化を続けています。日々の変化は小さくても、数年単位で見ると確実に大きな傾向となって現れています。私が経験した区議会議員としての3期12年の間の港区の変貌と、私の基本姿勢をまとめてみました。

1期目

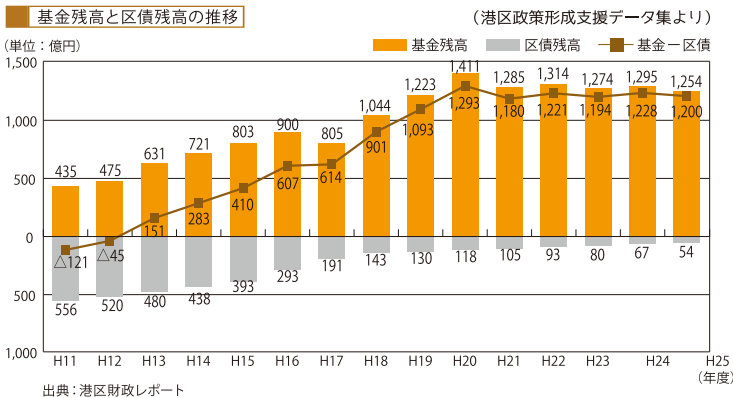
平成15年～19年

港区

バブル崩壊後平成8年に16万人まで落ち込んだ人口は回復傾向を見せつつも、当初子どもの数はまだ少なく、廃校になる幼稚園や小学校もありました。しかし、都心回帰でマンション建設が進み、人口と税収は増え続けていきます。そこで区は基金を積み増すとともに利息負担を抑えるため区債を前倒しで返済していき、基金残高から区債残高を引いた黒字分が拡大していく、いわゆる貯金体質の区財政に転じていきます。

私

当選して間もなく、私たち議員の1票で小学校の廃校が決まるなど、間接民主主義とはいえ、責任の大きさを痛感しました。一般の区民と区政の距離を感じ、サイレントマジョリティ(声なき大多数)の思いをいかにキャッチし区政に反映させていくか、を意識していました。



3期目

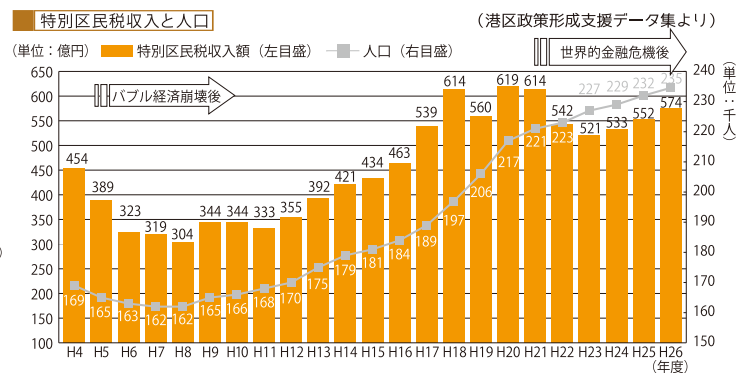
平成23年～27年

港区

東日本大震災を機に施設計画を見直すなど、防災対策の充実を優先する区政運営が行われました。また年少人口の著しい増加に伴い、猛スピードで保育園の定員拡大を行うなど、子ども関連施設の整備に全力が注がれました。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、外国人観光客の増加、区内在住外国人の多さ(約1万8千人、人口比8%)などから、「成熟した国際都市」が今後のキーワードでもあります。

私

保育園の待機児童解消、幼稚園の3年保育の定員拡大、学童クラブの定員拡大、小学校の教室不足、など子ども人口の増加に伴う諸課題に大きな焦点が当たりました。港区の豊かな財政基盤を背景に、子どもに関するハード面の課題は一定の解決の兆しが見えてきました。それに対し、特別養護老人ホームの待機者問題など、支援が必要な高齢者に関する課題はまだまだ誰もか安心できる状況にはなっていません。年をとっても施設や住み慣れた我が家で安心して暮らしていける体制を作ることが今後の優先課題であると確信しています。



2期目

平成19年～23年

港区

地域密着のきめ細かい住民サービスを目指し、区内5支所でほとんどの業務が完結する体制を整えたり、コミュニティバス(ちいばす)の路線拡大を行うなど、豊かな財政を区民サービスに還元する積極財政に転じていきます。芝浦港南エリアの開発が進み、ファミリー層の流入とともに子どもの数が増え、保育園の待機児童が深刻な問題になっていきます。

私

豊かな財政を背景に膨張傾向の予算。財政が豊かだからこそ、バラマキにならないようコスト意識を強く持って事業を精査し、子どもや高齢者施策など優先順位の高いところに集中投資すべきと訴えました。

まとめ

人口あたりの財政力で見ると日本一裕福な港区ですが、住民サービスの元になる財源の根幹を占める区民税収入は、上位1割の高額納税者が6割の税収を納めているとのデータもあり、港区の財政は国の景気動向やその時々的人口トレンドに左右されやすい構造になっています。過去12年間の港区の推移を見ても、経済動向や人口動向に連動して動く歳入と歳出の変化は他の自治体と比べても大きいと思います。

したがって区議会議員の仕事は、区民の生の声を少しでも多く吸収し、区民サービスに反映させることですが、港区においては、対処療法的にならないよう、先を読む力も大切です。その時々区民ニーズと将来予測を的確にキャッチできるように、これからも「現地現場主義」「顔の見える政治」を大切に、研鑽を積んでいきたいと思ひます。

● **昭和49年 京都府生まれ**

子どもの頃は伝記とお笑いが大好きでした。

● **平成 4年 同志社高校卒業**

宝ヶ池周辺の美しい町並みが今も目に焼き付いています。

● **平成 9年 東北大学教育学部卒業**

高校生の頃、家族で旅行した仙台の街の美しさにひかれ、大学は仙台へ。緑が多く美しい街並み、人の温かさ。仙台は大好きでしたが、実家から遠く離れて一時ホームシックになり、親のありがたさがわかりました。

● **平成11年 港区議会議員選挙 惜敗(795票で落選)**

偶然参加した勉強会で区議会議員という仕事を知り、身近な問題を扱っているのに遠い存在なのはおかしい、普通の人の目線と感覚こそが必要では、と立候補を決意。ご縁のあった港区で立候補しましたが、力及ばず14票差で落選しました。

● **平成11年～平成14年 税理士事務所勤務**

町の中小企業が事務所のお客さんでした。中小企業の経営が構造的に大変な時代であることを実感し、真面目に働く人が報われるよう政治は何ができるのかを考えていました。

● **平成15年 港区議会議員 初当選(1,406票)**

地域の方から多くを学び吸収したあつという間の4年間でした。

● **平成19年 港区議会議員 2期目当選(2,056票)**

多くのご支持をいただき、うれしさとともにプレッシャーを感じました。他の自治体の例を港区での政策提言に活かそうと、近隣自治体の議員との交流を深めました。

● **平成23年 港区議会議員 3期目当選(1,755票)**

選挙の前月に東日本大震災が発生し、落ち着かない気分での選挙戦でした。無所属ではありますが、他党の議員と会派を組むなど、他の議員と親交を深めることで充実した議会活動を送ることができました。

また、防災・エレベーター等対策特別委員長を務めさせていただき、委員会運営を学ぶことができました。



子どもの頃



大学の卒業式で母と



当選が決まり両親と



議会で質問



楽しい地域行事は
情報収集の場でもあります。



多くの皆様からの温かいご支援に感謝し、
これからもがんばります。

なかまえ由紀

なかまえ由紀の目指す港区

1

本当に区民が望んでいる
サービスを提供するために

情報の双方向をもっとスムーズに。必要な情報がわかりやすい広報のあり方、気軽に声を上げることのできる広聴制度を推進。可能な限りすべてのデータをオープンにし、透明で信頼される区政に。

2

乳幼児から高齢者まで、
港区で安心して暮らせる
体制を確立

福祉は行政の最重要項目。子ども、高齢者、障害者に関する徹底したニーズ調査を行い、サービスの需要予測と供給体制について年次計画を立て、わかりやすく区民に提示することが急務です。

3

成熟都市にふさわしい
美しい町並みを

長い年月をかけて築かれた町の個性は私たちの財産です。周囲と調和した建物が誘導されるよう、まちづくりの仕組みを整える必要を強く感じます。

予算委員会で質問しました

平成27年3月

予算委員会では、身の回りのテーマに関し細かい部分まで議論ができます。

会派「みなと政策クラブ」の一員として、特別養護老人ホームの入所審査基準について、高齢者の見守りについて、歴史的景観の保全について、受動喫煙対策について等、質問・要望しました。

なかまえ 由紀

Vol.55



仲間へ勇気!

の港区虎の巻

港区議会議員

無所属



プロフィール

- 昭和49年生まれ、京都府出身
- 同志社中・高、東北大学教育学部卒業
- IT企業に就職後、参加した勉強会での出会いをきっかけに、港区議会議員選挙に立候補。現在4期目。
- 所属委員会
-建設常任委員会
-東京オリンピック・パラリンピック対策特別委員会

新会派は「みなと政策会議」です

考えの近い議員で作るグループが会派です。区議会議員は、それぞれが個々に支持をいただき当選してきた独立した存在ではありますが、考えの近い者がまとまり、それぞれの強みを生かし、団結して動くことにより、政策実現力が高まる利点があります。

改選後、超党派の議員で集まり、綱領と政策協定を作り、民主党4名、維新の党2名、社民党1名、無所属3名の計10名で「みなと政策会議」を結成しました。

キーワードは自由と多様性です。区民に開かれた参加型民主主義、多様性が認められる社会の実現、イデオロギーにとらわれず合理的で現実的な政策の実現、を目指しています。

超党派でこのような人数の多い会派が誕生するのは珍しいことだと思います。

港区議会では旧来より、会派の人数に応じて議長や委員長などのポストを振り分けるドント方式を採用してきました。しかし今回、私たちの会派は「ポスト狙いの野合で信頼できない」と他会派から非難され、すべてのポストが与えられませんでした。もちろん私たちの会派はポスト狙いではありません。議会における正当な権利として、人数に応じた対応がなされるべきと主張してまいりました。しかし残念ながら、議会内の多数決により、その思いは受け入れられませんでした。多数決という民主主義の一手法について、あらためて考えさせられました。

このような船出となりましたが、多様で質の高い住民サービスの実現に向けて、がんばってまいります。小さな声も大切にします。皆様のお声をお寄せください。

みなと政策会議

- 民主党 七戸淳、杉浦のりお、清家あい、兵藤ゆうこ
- 無所属 榎本茂、横尾俊成、なかまえ由紀
- 維新の党 山野井つよし、榎本あゆみ
- 社民党 阿部浩子



6月の定例議会

当会派からは清家幹事長が区政全般について代表質問を、山野井議員がおもに受動喫煙対策について一般質問をしました。

なかまえ 由紀

Vol.55



仲間へ勇気!

の港区虎の巻

港区議会議員

無所属



プロフィール

- 昭和49年生まれ、京都府出身
- 同志社中・高、東北大学教育学部卒業
- IT企業に就職後、参加した勉強会での出会いをきっかけに、港区議会議員選挙に立候補。現在4期目。
- 所属委員会
-建設常任委員会
-東京オリンピック・パラリンピック対策特別委員会

当選のご挨拶

4月の区議会議員選挙にて、1,614票いただき、4期目に歩みを進めさせていただきました。

特定の支援団体が無いなか、お一人お一人との絆の上に議会に送り出させていただいていることに感謝と責任を感じています。

4期目もしっかり活動してまいります。

私は初当選以来ずっと無所属で活動してきました。政党に所属する利点ももちろんあると思いますが、主に生活に密着したテーマを扱う区議会においては、政党の論理に左右されず諸課題に自由に対処できる無所属でいたいと思っています。

4期目にあたり、特に力を入れて取り組みたいことが3つあります。

これらを中心に、区政全般の諸課題に積極的に取り組んでまいります。

皆様からご意見やアイデアをいただけるとうれしいです。

また個別のご相談にも全力で対応いたします。ご質問やご不安、何でもお寄せください



3つの取組み

1



高齢者が安心して住み続けられる

福祉の充実

行政サービスの根幹は福祉であり、あらゆる立場の方が安心して住み続けられる環境を整備することだと思っています。特に歳をとってからの安心を確保することは、すべての世代の安心につながります。

介護施設の増設、見守り等在宅生活をサポートする体制の充実により、歳をとっても住み慣れた我が家や近隣の施設で生活し続けるよう、環境を整備していきます。

2



成熟都市にふさわしい

災害に強く美しいまちなみ

長い年月をかけて築かれた町の個性は私たちの財産です。周囲と調和した建物が建設されるよう、まちづくりの仕組みを整えてまいります。

老朽化マンションの建替え促進など災害に強いまちづくりにも積極的に取り組みます。

3



必要な情報がスムーズに入手でき
気軽に声を上げられる仕組みの構築

区役所をもっと身近に

区では数多くのサービスが行われています。大量の情報の中から必要な情報が必要な方にきちんと届く広報、気軽に声を上げることのできる広聴を確立し、区民満足度の向上につなげます。

なかまえ由紀

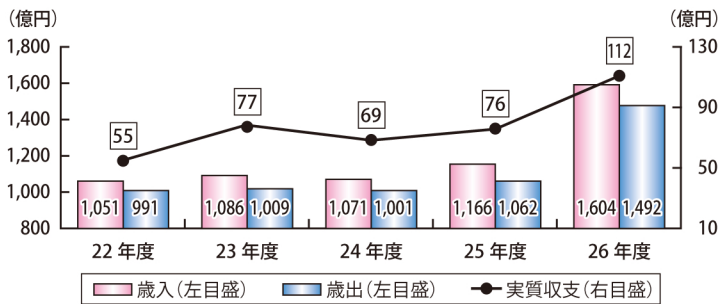


港区議会議員 無所属 の 港区

■26年度決算の状況です。



◎決算額の推移



- 区政史上最大の歳入歳出額となりました。
- 歳入は前年度比37.6%、439億円増。増加の主な要因は、繰入金
の増加(前年度比190億円増、施設整備のために公共施設等整備基金
の切り崩しなど)や、住民の皆さんから納めていただいていた特別
区民税の増加(人口増や個人所得の上昇により前年度比20.6%、
114億円増の666億円)です。
- 歳出は前年度比40.5%、430億円増。主な要因は、みなとパーク芝
浦などの大型施設の竣工です。

◎区民1人あたりの貸借対照表

●●●● 財産 ●●●● 財源 ●●●●

資産 1,409 億円	負債 13 万円
	純資産 1,396 万円

とても良好な状況です。

◎皆様に身近な事業の経費

区民保養施設(みなと荘) 延べ利用者1人あたり 13,000円	いきいきプラザ 延べ利用者1人あたり 1,762円	保育園 入所児童1人あたり 2,307,000円
予防接種事業 1回あたり 10,483円	清掃事業(ごみ収集・資源回収) 区民1人あたり 18,000円	放置自転車対策 区民1人あたり 1,798円
公園 区民1人あたり 2,971円	学校給食 1食あたり 小学校 871円 中学校 1,107円	学校プール開放 利用1回あたり 3,766円

私たちに身近な事業の経費です。満足度を維持しつつ、削減でき
る経費は節約していけるよう、今後も注視してまいります。皆様も
どうぞ身近な区政に注目してみてください。

(図表はすべて「港区財政レポート」より)

●他区と比較すると

財政力指数が特別区平均の倍以上であるなど、港区の財政は他区と
比べても非常に良好です。ありがたいことですが、一方で、財政が潤
沢ということで、港区だけが東京都からの普通交付金を平成15年度
以降もらっていません。この交付金は、大都市である東京都が23区
の警察や消防、水道などの業務を一体的に担っているため、本来は市
町村に入る固定資産税や法人住民税などを、一旦東京都が23区から
吸い上げて約半分徴収した後、残りのほぼすべてを各区の財政力に応
じて分配するものです。たしかに港区は豊かですが、多数の来街者や
在勤者向けインフラ整備や防災対策など都心区ならではの需要もあ
り、その辺りも考慮した交付金の算出を東京都に要望しています。

■決算特別委員会で質問、要望しました。

- 今後の財政運営と人口推計/
地方創生に対する港区のスタンス/
公共施設マネジメント/民泊条例/
効果的な広報と広聴/
公共施設予約の利便性向上/
受動喫煙対策/難病支援/
特別支援教育/高齢者の詐欺被害防止/
今後の介護施策/動物愛護/
自転車シェアリング/建築紛争予防/
国際教育・がん教育・薬害教育・
多様性尊重など幅広い教育について 等



■28年度予算要望書を区長に提出しました。

会派メンバー10人が日々皆さんから何う要望や自分自身の思いを
出し合い、120項目の提案にまとめました。(HPに全文を掲載しています。)



プロフィール

1974年生まれ、京都府出身
同志社中学・高校、東北大学
教育学部卒業
IT企業に就職後、参加した勉
強会での出会いをきっかけに
立候補、現在4期目
普通の人の感覚を政治に、の
思いで活動



●ご意見、募集しています!

〒106-0047 東京都港区南麻布4-11-17-410 TEL/FAX: 03-3446-9033

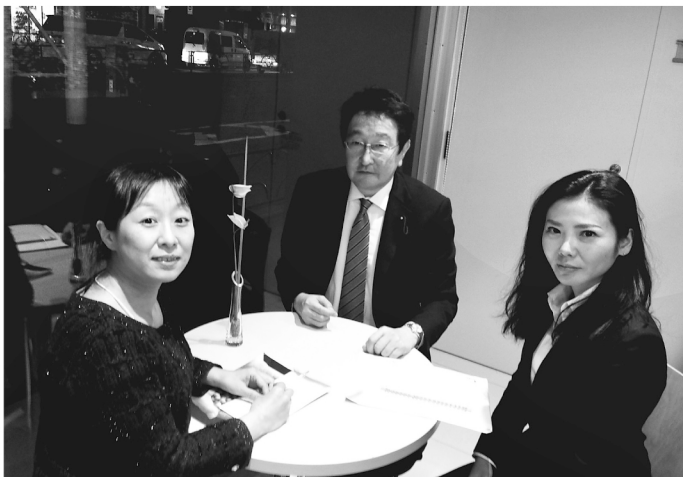
✉ info@nakamaeyuki.com 🏠 www.nakamaeyuki.com

facebook
twitter

🔍 なかまえ由紀 で検索

国際都市東京の未来 – 多文化共生社会の実現に向けて –

2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、関連ニュースが日々報じられるなど、機運が高まっています。訪日外国人観光客の増加も肌身で実感する昨今です。多文化共生社会を築くための自治体の取り組みについて、小沢あい目黒区議会議員、なかまえ由紀港区議会議員、のづケン新宿区議会議員で意見交換しました。



小沢あい：昨年の訪日外国人の数は一昨年と比べ約5割増え、過去最高を記録しています。訪れる場所も多様化していると言われており、目黒区でも随所で外国人の姿を見かけるようになりました。ハードソフト両面での受け入れ態勢の充実が求められています。

のづケン：新宿区は観光客にも人気のエリアですが、区民の約12%にあたる約3万9千人が外国人で、実は外国人住民数が全国一なんです。多文化共生は古くからの課題です。

なかまえ由紀：外国人といっても観光客、在住者、在勤者などで、求めるニーズも違っていますが、港区では10年くらい前から、外国人にやさしい区政ということが言われ始めました。港区は大使館や外資系企業が集中し、多くの外国人が居住しています。そのような国際都市

であることに加え、在住外国人の方々に多額の住民税を納めていただいているにもかかわらず、選挙権がないことなどから区政において外国人のニーズが見落とされがちなのではないかと議会でも指摘され、外国人向け施策の充実を図ってきました。

小沢あい：オリンピックを契機に、外国人を迎え入れることで地域の活性化を図ろうと各自治体が趣向をこらしています。前期の一般質問で、私は「一校一国応援運動」を提案し、教育現場での多文化共施策をうたえました。外国人と交流するという言葉の壁を乗り越えることに目が行きがちですが、お互いの文化や価値観を尊重する気持ちを様々な機会を通して育んでいきたいと思っています。

のづケン：同感です。新宿区では2005年に開設した多文化共生プラザで、外国人に対し、さまざまなセミナーを開催したり、各種情報提供、相談の受け付けなどを行っています。このように拠点施設を設け、外国人にやさしい区政を推進しています。

なかまえ由紀：港区では行政情報の多言語化、大使館との連携、外国人向け防災対策、区立小中学校での国際教育の充実など、幅広い分野で取り組みを進めています。外国人向け広報紙やメールマガジンも発信していますが、外国人にももっと気軽に行政に声をあげていただけるよう、さらに効果的な広報が求められています。

のづケン：それぞれの自治体に応じた効果的な施策展開ができるよう、お互いに地域でしっかりとアンテナを張りつつ、今後も情報交換していきましょう。



目黒区議会議員
小沢 あい
(無所属 1 期目)



港区議会議員
なかまえ 由紀
(無所属 4 期目)



新宿区議会議員
のづケン
(無所属 5 期目)

なかまえ由紀^{ゆき}



港区議会議員 **無所属** の 港区



平成28年11月24日

「会派を代表して 区長、教育長に質問しました!」

質問と答弁の要旨を以下に記します。私の質問がQ、区長・教育長の答弁がAです。

1 区財政について

Q: 人口推計によると、港区では今後も人口増が続き、この先、年少人口と老年人口のピークを迎える予定。現在区財政は潤沢だが、豊かでも無駄を精査し、効率的な財政運営を追求する姿勢が必要。人口推計も複数パターン想定し、長期先を見据えた計画的な行財政運営を根底に据えるべき。人口30万人時代とその先の人口減少時代も見据え、転用しやすい施設整備を行うなど、中長期的視点に立った行財政運営が必要と考えるが、区長の見解は。

A: 自主財源の確保と経常経費の節減に積極的に取り組む。長期的視点では公共施設マネジメント計画の策定や(仮称)震災復興基金の積立など、持続可能な財政基盤を堅持する。

2 予算編成過程の公表について

Q: お金の使い方に関する情報が十分に公開されてこそ、区政の透明化と向上につながる。各課、事業ごとの予算要求状況や査定結果など、予算編成過程を公表すべき。また、公表に際しては予算議会前に公表することで充実した審議が可能となる。今後の方針は。

A: 今後、各部局の予算要求から予算案決定までの過程を、数値だけでなく、区の考え方を加えてわかりやすく公開し、幅広く意見をもらえるよう検討を進める。

3 事務事業評価について

Q: 今年度は504事業を評価したが、現在の制度は自己評価で客観性に欠ける。利用上の課題を一番よくわかっている利用者の声、費用対効果に関する専門家の視点など、外部の評価をしっかりと盛り込むべき。加えて、事業目標としている数値に算出根拠を示す等、より客観的なものにすべき。

A: 今後も評価手法を更に工夫し、効果的な評価制度となるよう充実を図る。

4 効果的な広報について

Q: 京都市の広報紙は、情報伝達にとどまらず読み物としても十分に楽しめる魅力的なものとなっており、多くの市民に親しまれている。港区の「広報みなと」もデザインが改良され、以前より読みやすくなったが、文章の切り口やわかりやすさなどを工夫し、読みたくなる広報紙を目指すべき。他にも、区のホームページをもっと見やすくする、メディアに取り上げられやすい記者発表を行う、区立住宅など各種応募資料をシンプルにする等、わかりやすい情報発信に努めるべきと考えるが、今後の取り組みは。

A: 現在、広報紙の改良、ICTを活用した情報発信、プロジェクトを用いた記者発表、わかりやすい文章表現など、伝わりやすい情報提供の工夫に努めている。

5 「広報みなと」の全戸配布について

Q: 現在、広報みなとは希望者への戸別配布を除き新聞折込で届けているが、新聞購読世帯の減少を考えると全戸配布の方が効果的に行き届く。23区でも全戸配布している区はいくつもある。港区でもすべき。

A: 戸別配布サービスや広報アプリなど様々な手法を活用し届ける。

裏面に続きます。

プロフィール

- 1974年生まれ、京都府出身
- 同志社中学・高校、東北大学教育学部卒業
- IT企業に就職後、区政を身近にする架け橋になりたい!と立候補、現在4期目
- "市民目線と現場主義、透明・公正・誠実な区政。"をモットーに議会に臨んでいます。
- 座右の銘：一期一会



●ご意見、募集しています!

〒106-0047 東京都港区南麻布4-11-17-410 TEL: 03-3446-9033 FAX: 03-3578-2949

✉ info@nakamaeyuki.com 🏠 www.nakamaeyuki.com

facebook.
twitter

🔍 なかまえ由紀で検索

6 防災について

*民間事業者との連携

Q: 都心港区では区民はもとより来街者や帰宅困難者に対する備えが必須。現在、鉄道事業者や大型商業施設などの民間事業者と連携し対策を進めているが、区内事業者の備蓄や避難スペースの数、被害想定に対する充足率など、情報を一元的に把握できているのか、情報共有、連携状況について問う。

A: 約3万1千人が安全に過ごせる一時滞在施設の確保など混雑防止に備えている。現在62社と協力協定を締結し、全体を把握しているが、さらなる連携を進める。

*マンション居住者との連携

Q: 災害時、備蓄物資は基本的に学校などの公的避難所を通して配布される。したがって各避難所であらかじめ人数を想定し、運営マニュアルを整備すべき。区内では耐震性の高いマンションに住む在宅避難者も多数想定され、在宅避難者も含めた備蓄物資の配布に関するルール作りが必要。避難所運営を行う地域防災協議会と地域内のマンションが日頃から交流を図れていることが大切で、地域防災協議会が有事に円滑に避難所運営できるよう区としても支援を。

A: 在宅避難者が多く生活するマンション居住者と地域防災協議会が連携し、実効性ある避難所運営訓練ができるよう、積極的に支援していく。

7 木造住宅耐震化支援について

Q: 東京湾北部地震での港区の被害想定は、東京都防災会議発表の平成24年の試算によると死者200人。そのうち174人が建物倒壊によるものとされており、倒壊に対する対策が遅れている木造住宅の耐震化を早急に進める必要があるが、今後の区の取り組みは。

A: 旧耐震の戸建て木造住宅は区内に約3,600戸あるが、区が今までに耐震化助成を行った実績は84件。今後は旧耐震の木造住宅を全戸訪問し、耐震化の必要性や区の助成制度を丁寧に説明するとともに、アンケート調査により実態を把握し、効果的な支援策につなげる。

8 高齢ドライバーによる事故防止対策

Q: 悲劇が後を絶たない。警視庁では、地銀の定期金利優遇、レストランの割引、など様々な特典を用意して、免許証返納を促進する取り組みをしているが、浸透していない。返納制度の啓発など区としてできるあらゆる手立てを講じるべき。

A: 安全運転の徹底や自主返納の案内をしているが、自主返納支援事業についても検討する。

9 ごみの排出抑制に向けて

Q: 区の清掃事業の一人あたりコストは昨年度約1.8万円。道徳的観点からだけでなく、コスト面からごみ減量の必要性をわかりやすく説明することで、ごみの抑制と税金の有効活用につなげるべき。

A: 新たに始めたごみ分別アプリなどを活用し、区民にわかりやすく知らせる。

10 育児と介護のダブルケア支援について

Q: 子育てと介護に同時に直面するダブルケアが港区でも今後深刻化すると思われる、早急な対策が必要。子育てと介護、さらには仕事の両立を図る人を応援すべく、課を横断した総合的な支援が必要。

A: 今後も複合的な課題に直面している方の意見やニーズを聴き、適切な対応をしていく。

11 待機児童対策について

Q: 物件と保育士の不足により保育園誘致が困難な今、居宅訪問型保育事業、家庭的保育事業、地域開放型事業所内保育事業、こども園、など新規事業を積極的に展開すべき。

A: 居宅訪問型保育事業は来年度30人の枠を確保。来年度開設予定の事業所内保育所の区民枠を事業者と協議中。こども園は拡大を検討。家庭的保育事業は調査研究する。

12 年少人口の増加要因と今後の学校整備について

Q: 区の人口推計によると、10年先まで年少人口が増え続ける見込み。増加の要因は何か。また増加に対する学校整備計画は。

A: 集合住宅の開発が増加要因。今後教室不足が見込まれる10校は内部改修、増築、別の場所での確保などで対応していく。

13 障がい児施策について

Q: 専業主婦家庭が一般的だった昔と違い、今は障がい児がいても共働きの家庭が多い。預け先の拡充など親が働いていることを前提とした制度設計が必要。

A: 障がい児が安心して保育や療養が受けられるよう検討する。

14 小学校就学に関する情報の周知について

Q: 認可保育園、認証保育園、無認可保育園、幼稚園、など未就学児が通う園の形態に関わらず、全ての未就学児家庭に小学校との交流や見学の機会、就学に関する情報が平等に届くよう配慮すべき。

A: 現在港区保幼小連絡協議会で、交流方法や情報共有について協議中。情報が十分行き届くよう取り組む。

私の思い

私の所属会派「みなと政策会議」は、多様性の尊重を政策テーマにしています。多様な人や生き方が尊重され、受け入れられることで、多くの人が幸せに暮らせる社会が実現すると思っています。

その多様性の先進国と言えるアメリカで、国民の対立や分断が連日報じられており、民主主義や先進国のあり方について、あらためて考えさせられます。

分断をつなぐのが本来の政治の役割だと思うのですが、現在の民主主義は時として分断を加速させてしまっています。多数決により何かを選び何かを犠牲にするだけに終始しているからです。

民主主義にのっとり多数決で物事を決めつつも、少数の声への配慮や説明責任といった「誠実さ」や密室で進めない「透明でフェアな姿勢」を持つことが大切なのではないでしょうか。情報をオープンにし、皆で考える姿勢です。

国内外の多くの出来事が物語っているのは、密室やブラックボックスというものに対する有権者の徹底的な嫌悪や不信感です。

透明性・公平性・説明責任を常に意識しながら、これからも議会に臨んでまいります。

街頭ポスター「かべ新聞」継続中。
内容を随時更新し、掲示させていただきます。



なかまえ由紀

VOL.59



討議用資料

中前

ゆき

仲間へ勇気!

の港区虎の巻

港区議会議員 無所属

基本姿勢

区政のチェック

財政が豊かだからといって「ばらまき」になることのないよう、福祉は大切にしつつも、コスト意識、費用対効果の視点で事業をチェックします。

透明性と説明責任を重視

積極的に情報公開を進め、説明責任の果たせる区政を築きます。

批判ではなく提案を

少数意見に配慮しつつも、一部の利益でなく全体にとっての利益を考え、提案型で発言します。

進取の精神で

時代に即した新たな自治体モデルを築くべく、積極的に先進事例等の研究をします。



壁新聞で情報発信継続中



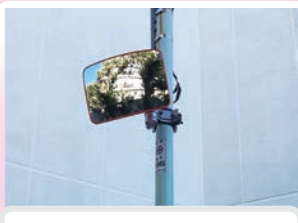
主に東京都と23区の役割分担について議論しています



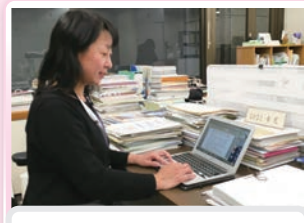
各種会合は意見交換の大切な場です



地域の行事に参加



街の危険を解消



議会控え室



なんとか完走!

プロフィール

1974年生まれ、京都府出身
同志社中学・高校、
東北大学教育学部卒業

区政はもっと身近であるべきと
思い立候補、現在4期目
ITソリューション企業や
税理士事務所への勤務経験あり

- 趣味：美しい自然に触れること、
身体を動かすこと
(毎週スポーツセンターで水泳を習っています)
- 座右の銘：一期一会
- 防災士として、まずは一人一人が自分の命を守る
「自助」の徹底、地域で支え合う「共助」の向上、
行政からの支援「公助」の充実を全力で進めます。

ご意見、募集しています!

〒106-0047 東京都港区南麻布4-11-17-410 TEL:03-3446-9033 FAX:03-3578-2949

✉ info@nakamaeyuki.com

🏠 www.nakamaeyuki.com



🔍 なかまえ由紀 で検索



政策決定プロセスに問題解決のカギあり!?

港区の人口は、約15万人だった平成8年を底に年々増え続け、現在は約26万人です。(うち外国人が2万人)あと10年ほどで30万人になると見込まれています。下記グラフを見ていただくと、現在の人口は昭和30年代半ばと同じ水準です。また、戦前の港区には32~33万人もの人が暮らしていたようです。ライフスタイルや人々の意識が今とは大きく違っていたとはいえ、低層の建物に今と同じもしくはそれ以上の人々が暮らしていたことに驚きます。

ひきかえ昨今は、核家族化、女性の社会進出、介護の社会化等により、子育てや介護、福祉を社会で担う必要が増しており、財政が豊かな港区といえども、限られた区の敷地の中で、増え続ける需要に十分に応えるのは難しい状況が続いています。

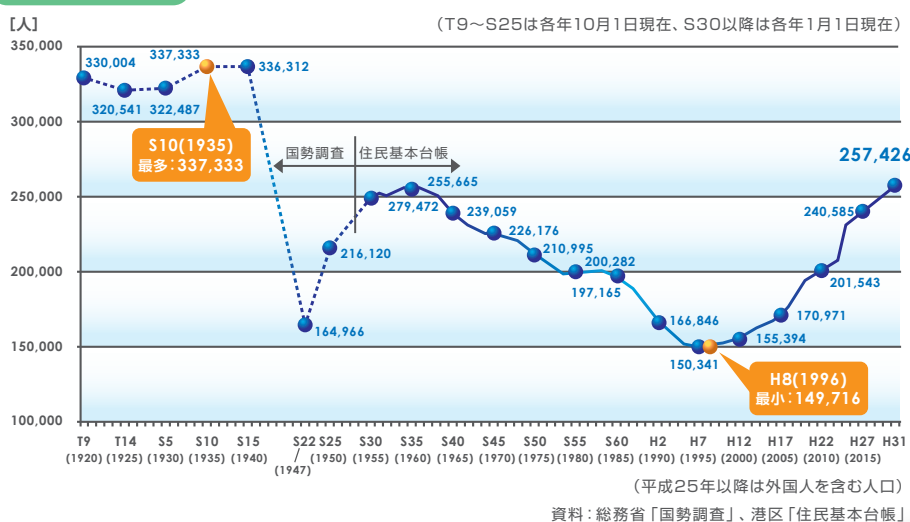
行政が何をどこにいつ作るか、どの事業を優先するか。一般的にそれらは、私たち区議会議員が日頃地域の方からご相談を受けたりする中で感じたことを議会で質問や要望し、それを受けて行政が議会側に条例として提案し、議員の多数決により決定されています。

「多数決」は民主主義において物事を決める基本ルールです。しかし最近の民主主義では、1票でも多くを得たものが、他方を切り捨てる光景をたびたび目にします。人々のニーズや価値観が多様化し、一方で発信力の高い意見への安易な同調も起こりやすい世の中において、より多くの人々が納得できる政策決定をするためには、何が必要なのでしょう。従来の政策決定プロセスにプラスアルファの工夫をしなくてはならないと思います。区政で言えば、従来の議会での多数決に加え、政策が固まる前の早い段階から情報を住民に公開し、幅広く意見を募る姿勢や、少数意見への誠実な対応などでしょうか。

「情報をオープンに、皆で考える公正な政治」

利害や意見が対立しても、様々な立場に思いを馳せて皆で物事を決めていく。民主主義を強者のためのツールではなく、人に優しい社会のルールにしていくために知恵を絞っていきたいと思います。

港区の人口の推移



ご意見、募集しています!

〒106-0047 東京都港区南麻布4-11-17-410 TEL:03-3446-9033 FAX:03-3578-2949

✉ info@nakamaeyuki.com

🌐 www.nakamaeyuki.com



🔍 なかまえ由紀 で検索